

ピアチューターの意義と養成

Measuring the meaning and training of peer tutor in the higher education in Japan

学籍番号：201621613

氏名：舌間 倫香

Tomoka SHITAMA

近年、日本の大学は学生の学習時間の確保に向けて、様々な試みを行っている。その1つとして学生の自主学習を促す施設が設置されている。しかし施設内の人的サービスはいまだ普及していない。中でもピアチューターによる学習支援に関しては量的な調査や、実践研究は行われているが、雇用、研修の意図、ピアチューターの経験がもたらした影響などについてはほぼ調査されていない。本研究は、国内の大学の学習支援施設においてピアチューターがどのような意義を果たしているか、ピアチューターの養成のためにどのような支援が行われているかを明らかにする。またピアチューターの経験がもたらした影響や修了後のキャリアへの影響について明らかにし、ピアチューターによる人的支援の初動、継続、発展に寄与することを本研究の目的とする。調査対象は文献等でピアチューターについての報告書などが多く公開されている大学、なおかつアカデミックリテラシーを中心とした支援を行っている大学を調査対象として選定した。

調査の結果として以下の点が明らかになった。ピアチューターの意義として学生の正課外学習の充実、支援範囲の拡大と学生のニッチなニーズの収集が可能になること、ピアチューター自身の研究活動の活性化、キャリアパス形成に有効であることが明らかになった。また養成に関して、活動前の研修は記憶に強く残るため非常に有効であるが、あくまでも支援者側の意識を高め、目的を共有するための一要素であり、支援者側の成長のためには学生と教職員が課題や問題を共有していくことが重要であることが明らかになった。今後の課題として文理関わらず支援している大学や、理系学部のみを支援している大学では差異が生じることが予想される。また、人的な学習支援は大学図書館やラーニング・コモンズのみで行われているものではないため、そのような支援の実態も明らかにする必要がある。より広範囲な学習支援体制について明らかにすることで、これからより一層多様化していくであろう学生のニーズに合わせた学習支援を行うことができるようになると思われる。

研究指導教員：逸村 裕

副研究指導教員：池内 淳